



函館市公式観光
情報サイトはこぶら

函館市



五稜郭

道内でも屈指の観光地であり、集まった観光客を周辺地域に送るハブとしても重要な役割を果たす函館市。さらに世界文化遺産の構成資産2遺跡を擁し、ますます目が離せない。中でも、山田さんの「推し遺跡」は大船遺跡だ。「目の前に海が広がり、とても気持ちの良い場所。竪穴式住居が再現され

ていて、縄文人がどんな生活をしているのか想像が膨らみます」と話す。発掘歴約30年のベテランガイドさんもおおり、遺跡の知識に加えて発掘の裏話を伺えるのも魅力だ。
遺跡まで足を伸ばす時間のない方には、市立函館博物館がおすすめ。トトロにそっくりな縄文中期の土器や鹿の角で作られた人形「角偶」など、個性的な出土品が並ぶ。「土器の縄模様は複雑なデザインなどは、見れば見るほど面白い。思い思いの楽しみ方を見つけてほしいです」



大船遺跡 風景 出典:JOMON ARCHIVES (函館市教育委員会撮影)

縄文の心を感じるまち



立待岬

縄文DOHNANプロジェクト 代表 山田 かおりさん

道南に残る縄文時代の遺産の価値を再発見し、地域連携につなげる「縄文DOHNANプロジェクト」を主宰し、ワークショップの実施やPRキャラクターの製作など、2021年の世界文化遺産登録に向けた地域の機運を醸成してきた。

函館で生まれ育ち、関東で生活した後Uターン。その後、函館にとどまらず、道南の各地で地域おこしに関わる中で、地域を繋げる鍵として「縄文」に出会った。平等で、戦争がなかったとされる縄文人の精神に惹か

れるという。「穏やかにつながり合う社会が1万年以上続いたとは、想像もつきません。『縄文の心』に、現代のまちづくりのヒントがあるのでは」

世界文化遺産の登録はゴールではなく、今後も地元の子どものためのワークショップや「縄文コンシェルジュ」の育成などを各地で行う予定だ。「子どもたちが縄文について知識を深めることで、ふるさとに愛着を持ってくれれば」と展望を描く。

縄文DOHNAN プロジェクト(事務局)



函館市湯浜町6番9号
(山田総合設計(株)内)
(2022年11月移転予定)
☎0138-56-7556

